

教職大学院における実習科目を充実させるための学習動画コンテンツの開発

◎増田謙太郎（東京学芸大学教育実践創成講座）

○浅部 航太（東京学芸大学教育実践創成講座）

代表者連絡先：masuken@u-gakugei.ac.jp

【キーワード】 教職専門実習、学習動画、教職大学院

1 はじめに

本学教職大学院の改組に伴い、従前の実習科目（教育創成研修）は、「教職専門実習」へと変更された。改組から5年が経過し、教職専門実習の開設当初は想定していなかった GIGA スクール構想や「個別最適な学び」等、新たな教育課題に対応できる実践力の育成が喫緊の課題となっている。

また、第4期中期目標・中期計画においては「教職大学院及び修士課程については、令和元年度の組織再編の成果を検証し、より効果的な教育内容とするため、カリキュラムの見直しを行う」とある。教職専門実習においても、この5年間の動向を踏まえたうえで、より効果的な教育内容とするため、何らかの対応が必要となっている。

2 本プロジェクトの目的

本プロジェクトは、教職大学院における実習科目（以下、教職専門実習）において、より高い実践力を育成するための新たな教材として「学習動画コンテンツ」の開発を行うことを目的とする。よりきめ細やかに教職大学院生の実習における実践力の育成のため、「学習動画コンテンツ」の開発を行っていく。コンテンツの開発に当たっては、教職大学院生や実習校のニーズを調査し、授業づくりや指導案作成等のより具体的な内容に焦点化していくことが必要だと考えられる。

3 本プロジェクトの実施

（1）調査研究

教職専門実習におけるニーズの調査

教職大学院生が、教職専門実習でどのような困り感や悩みを抱えているのか実態把握を行った。2024年5月27日～6月7日の間、学卒院生2年目134名にアンケート調査を依頼し、50名から回答を得た。得られた回答は、意味のまとまりごとに切片化し、KJ法（1986年版）を用いて質的統合を行った。計79のラベルを作成した後、グループ編成を行った。グループ編成5回目まで表札の数が関係を探ることが可能な7個以内になったことから、図解化、叙述化を行った。

結果、多くの教職大学院生（以下「院生」）が、教職専門実習で「特に困っている、悩んでいる」と回答したのは【実習校との関係】と【課題研究】だった。【実習校との関係】での悩みは、実習校と院生との【ニーズの不一致】が一番の要因であった。この【ニーズの不一致】や週1回

という実習形態によって、【課題研究】で【実習校での授業実施が困難】なケースも生じた。また、【生徒指導・特別支援の知識不足と立場の曖昧さ】によって【子どもとの関係】に悩みを感じる院生がおり、これは人間関係の悩みという点で【実習校との関係】と共通していた。また、【課題研究】と共通し、週1回の実習形態が【子どもとの関係】づくりでの難しさにつながるがあった。

(2) 「学習動画コンテンツ」の制作

① 「学習動画コンテンツ」のコンセプト策定

教職専門実習におけるニーズ調査からは、学校現場での言葉や数字で表すことが難しい暗黙知を形式知に変換することに「学習動画コンテンツ」の有効性があるのではないかと仮定した。そこで、暗黙知から形式知に変換するにあたり、野中・竹内（2020）のSECIモデルを参考にした。SECIモデルは、暗黙知から形式知への変換を4つのフェーズ（共同化、表出化、連結化、内面化）で表すものである。

実習生が教職専門実習における困難さや課題を持ち寄り（共同化）、それを基にしてすでに教職専門実習を1年間経験した院生が学習動画コンテンツを制作する（表出化）。その動画を視聴した教職大学院生が自らの実習と合わせ理論化し（連結化）、学校現場でのノウハウとして生かす（内面化）。このような知識創造のサイクルを「学習動画コンテンツ」を用いて回していけるようにすることを、「学習動画コンテンツ」のコンセプト方針と定めた（図1）。

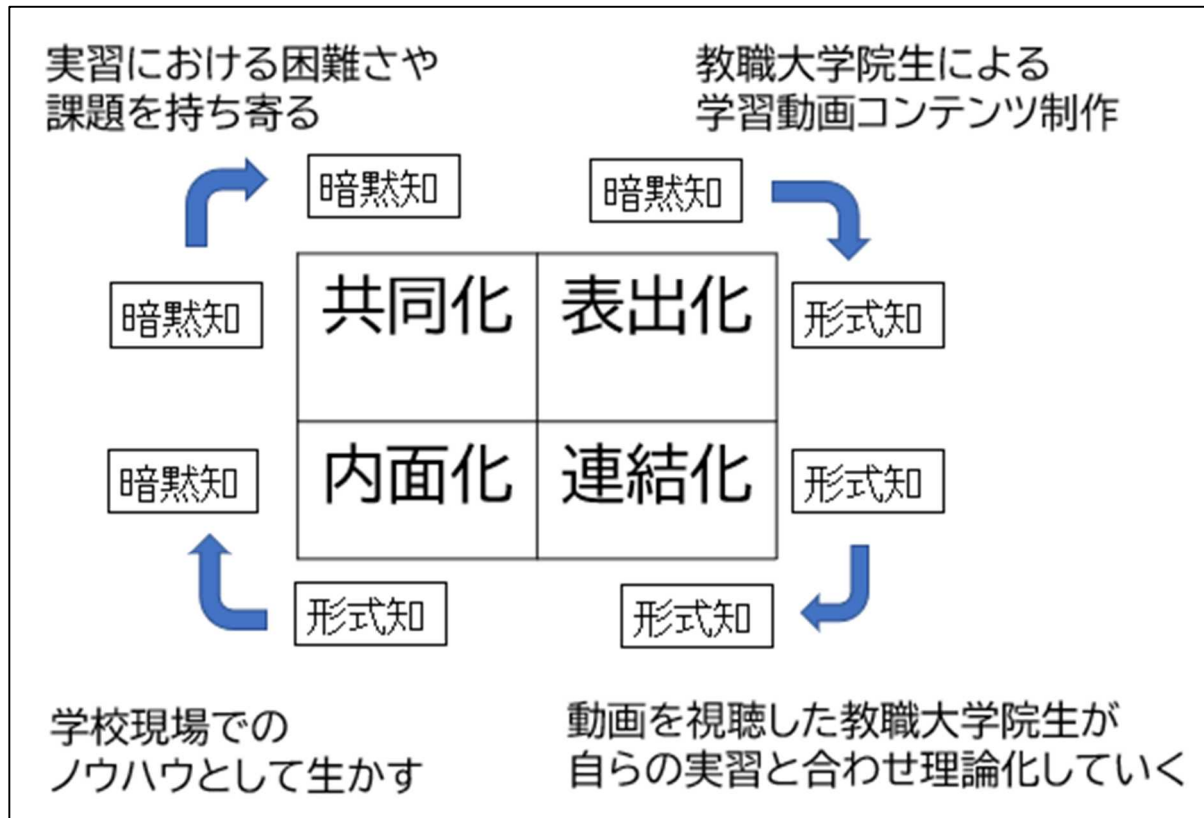


図1 SECIモデルによる学習動画コンテンツのコンセプト

②「学習動画コンテンツ」プロトタイプの試作

教職大学院生が手軽に「学習動画コンテンツ」を視聴できるようにするため、動画の所要時間は、約1分程度に収めることにした。

また、動画作成に当たっては、アバターを用い、アバターの院生が実習における困難や課題についてコメントしていくようにした(図2)。外見はアバターが話しているようになっているが、実際の音声については教職大学院生が録音することにした。

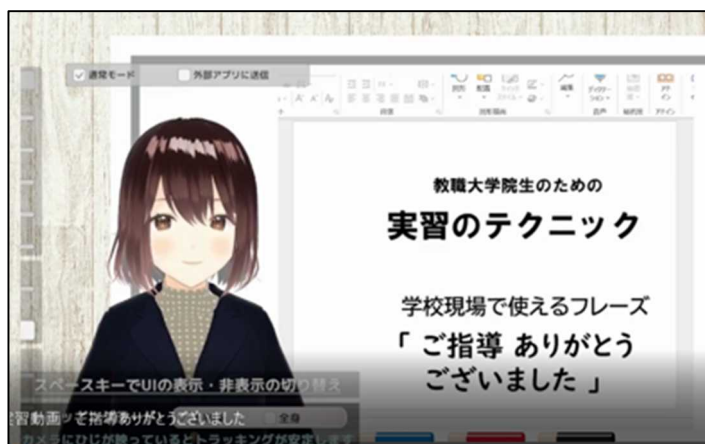


図2 プロトタイプ

しかし、個人情報保護の観点から、実装においてはアバターではなく、フルアニメーションでの制作が適切だという判断になった。

③「学習動画コンテンツ」の実装

「学習動画コンテンツ」は、フルアニメーションで20本作成した。

内容については、調査研究で明らかになった【実習校との関係】と【課題研究】を中心とした。

教職大学院生が手軽に視聴できるようにするため、動画の所要時間は、1～3分程度に収めることにした。

また、アニメーションの制作にあたっては、外部業者に業務委託した。

完成した「学習動画コンテンツ」は、教職大学院生が常時閲覧できるMicrosoft Teamsに掲載した。

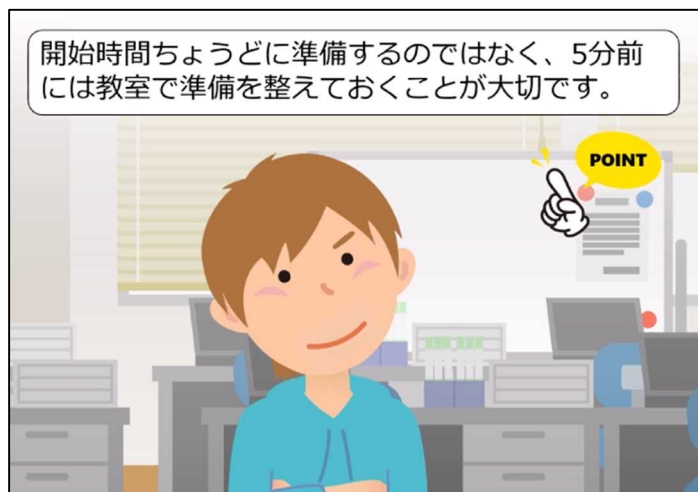


図3 学習動画コンテンツ

④成果

「学習動画コンテンツ」は、2025年5月27日～11月13日までの期間において、203回の閲覧があった(表1)。その中でビュー数が比較的多かったコンテンツは「時間を守るだけじゃダメ? (27ビュー)」「実習校の先生とのプライベートな距離感 (24ビュー)」「準備なしでも落ち

着いて話すコツ (23 ビュー)」であった。ビュー数が多かったコンテンツは、ニーズの調査で示された【実習校との関係】に関するものである。

表1 「学習動画コンテンツ」一覧とビュー数

	タイトル	ビュー数
1	時間を守るだけじゃダメ？	27
2	体調管理も実習の一部	10
3	実習を休むときの正しい連絡先	10
4	準備なしでも落ち着いて話すコツ	23
5	実習校の先生とのプライベートな距離感	24
6	授業における学習指導要領との関連	8
7	指導案作成が難しい	7
8	実習の準備が追いつかない！	8
9	授業参観後の感想を伝えるときのポイント	12
10	教員志望から進路変更 学校にはどう伝える？	8
11	校務分掌に関わる方法	11
12	職員会議に参加する方法	6
13	職員室での会話が気になる	3
14	生徒指導の現場を学ぶには	4
15	子どもとの関係を深めるコツ	7
16	実習がワンパターンでモチベーションが上がらない	7
17	自分以外の実習生の様子がわからない	4
18	課題研究が実習校で実現できない！	10
19	授業で研究データを取るには	10
20	教員以外のスタッフと話したい	4

4 課題

教職専門実習を行っている学卒院生が年間 300 名程度 (2025 年度は 305 名) という現状を考えると、今後「学習動画コンテンツ」が多くの実習生に閲覧できるように検討していく必要がある。

参考文献：野中郁次郎, 竹内弘高 (2020). 知識創造企業 (新装版). 東洋経済新報社.